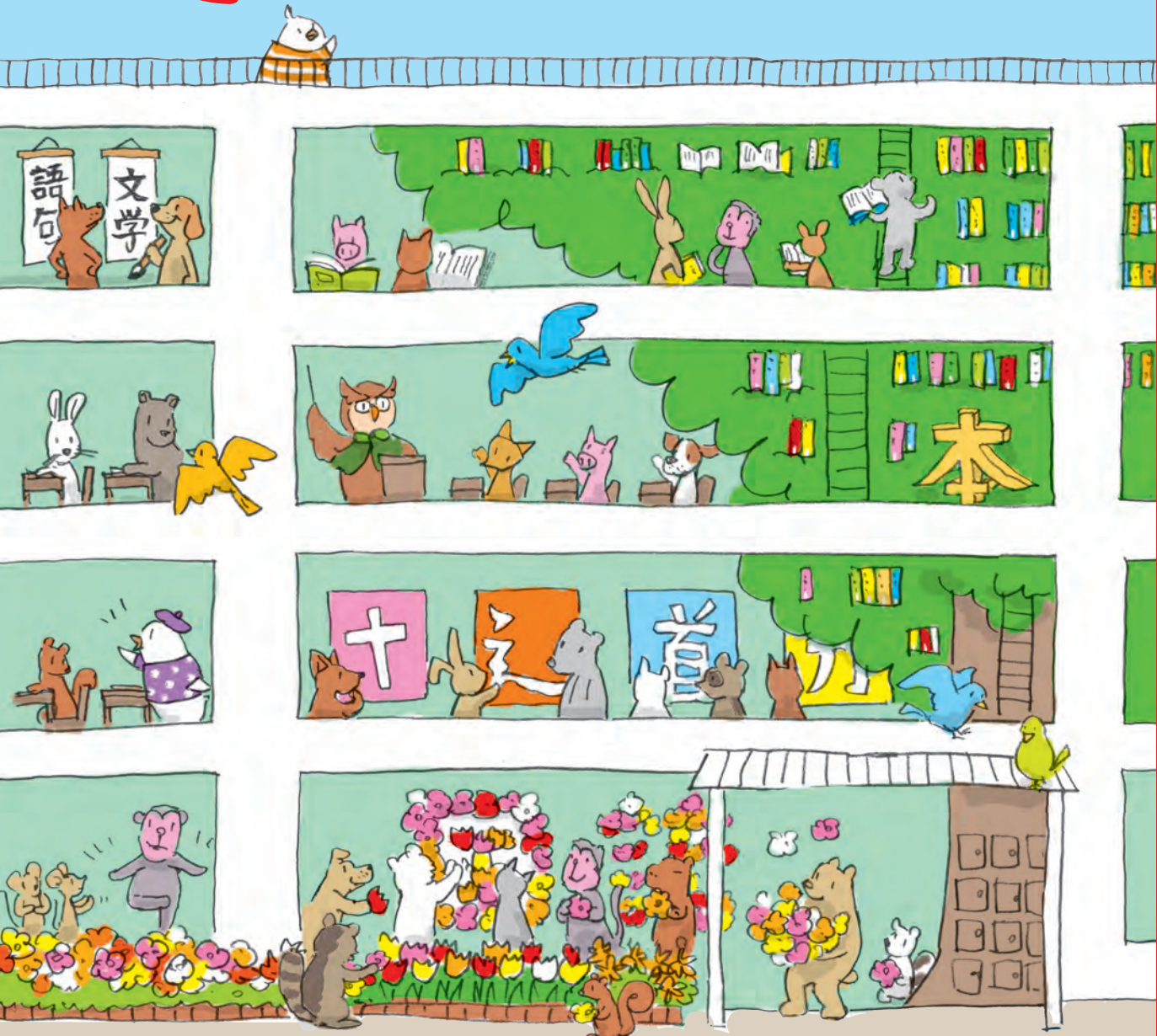


見る！読む！
なっく

国語便覧



部首、部首をまちがえやすい漢字や故事成語等の便覧
小学生国語 | 見る！読む！なっく 国語便覧



この本の特長



！分野別構成でわかりやすい
「漢字」「語句」「知識・表現」「文法」の分野別構成で、知りたい内容にすぐアプローチ！

！写真やイラストで楽しく理解
カラーの資料ページでは、覚えておきたい言葉を写真＋イラストで図解！

！豊富な用例で知識を整理
ハイレベルな内容を丁寧に解説、より高度な学びへ！

この本の使い方

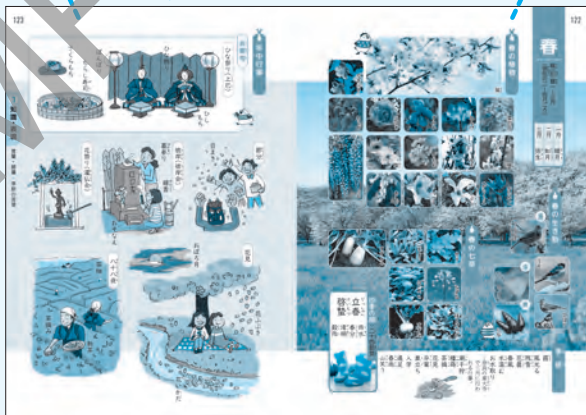


これだけは覚えろ！



それぞれの単元で、おさえておきたいポイントをまとめています。まずここをしつかり読んで、基本的な項目をおさえておきましょう。

写真やイラストで楽しい！



用例が豊富！

12 形容動詞	13 動詞
<p>「～な」「～い」「～く」で表す。例：きれいな花、静かな場所、元気な子ども。</p>	<p>「～る」「～する」「～たい」で表す。例：勉強する、遊ぶ、食べたい。</p>
<p>「～だ」「～です」「～です」で表す。例：これは本です、彼は学生です。</p>	<p>「～は」「～が」「～を」で表す。例：これは本が、私が、お弁当を。</p>
<p>「～に」「～で」「～から」で表す。例：学校に行きます、公園で遊ぶ、東京から来ました。</p>	<p>「～と」「～を」「～を」で表す。例：友達と遊ぶ、お弁当を食べる、お弁当を食べる。</p>
<p>「～が」「～を」「～を」で表す。例：お弁当を食べる、お弁当を食べる。</p>	<p>「～が」「～を」「～を」で表す。例：お弁当を食べる、お弁当を食べる。</p>

知って！



「これだけは覚えろ」を具体的に説明しています。重要なことからばかりなので、例・例文を参考にしながらしつかり理解できるようにしましょう。

いろいろ知って！



「知って」の内容をさらに発展的に説明しています。豊富な用例でくわしく説明して、辞典代わりとしても使えます。

※「知って」だけ、または「いろいろ知って」だけで構成されている単元もあります。

もくじ



第1章 漢字	
部首	漢字
1	部首、部首をまちがえやすい漢字
2	筆順のきまり、筆順をまちがえやすい漢字
3	まちがえやすい画数
4	漢字の成り立ち
5	複数の音読みがある漢字
6	複数の訓読みがある漢字
7	訓読みとまちがえやすい音読み
8	送りがなのつけ方
9	音読み、訓読み、重箱読み、湯桶読み
10	熟字訓
11	特別な読み方の漢字
12	同音異義語
13	同訓異字
14	形が似ている漢字
37	

第2章 熟語	
熟語	語句
1	二字熟語
2	三字熟語
3	四字熟語
4	覚えておきたい三字熟語、四字熟語
5	類義語
6	対義語
7	ことわざ
8	慣用語
9	故事成語
10	多義語
11	和語・漢語
12	外来語
13	覚えておきたい語句一覧
95	



第3章		知識・表現
かなづかい	1	現代かなづかいのきまり、長音の書き表し方
敬語	2	敬語
助数詞	3	助数詞
詩	4	詩の分類、表現技法
短歌・俳句	5	短歌・俳句の表現技法
	6	季語一覧
	7	覚えておきたい短歌・俳句
言葉・語彙	8	季節の言葉
	9	さまざまな言葉
文学史	10	作品一覧（江戸時代）
	11	古典の世界
	12	明治・大正の世界
	13	作者一覧（明治時代）
表現	14	時代のあいさつ
作文	15	作文の書き方
		155
		154
		148
		146
		140
		134
		130
		120
		114
		110
		108
		107
		106
		103
		102

第4章		文法
文・文節・単語	1	文・文節・単語
文の組み立て	2	主語・述語・修飾語・接続語・独立語
単語	3	単文・重文・複文
	4	各品詞の説明
	5	助動詞
	6	助詞
	7	まぎらわしい品詞の識別
		184
		179
		174
		167
		166
		164
		162
資料編		
文学史年表		188
品詞分類表		192
平かな・かたかな		194
ローマ字一覧表		195
小学校学習漢字一覧		195



1

部首、部首をまちがえやすい漢字

これだけは覚えよう！



1 部首：漢字を構成している各部分のうち、漢字を分類するうえで目安になる部分。大きく次の七種類に分類され、さらに「きへん」「にんべん」「たけかんむり」「あめかんむり」などのように名前がつけられている。

※漢字辞典によっては、部首が異なる場合がある。

2 部首の見分け方

- 1 へん 漢字の左側の部分にあるもの。
- 2 つくり 漢字の右側の部分にあるもの。
- 3 かんむり 漢字の上側の部分にあるもの。
- 4 たれ 漢字の上側から左下に垂れるもの。
- 5 によろ 漢字の左側から下側に続くもの。
- 6 あし 漢字の下側の部分にあるもの。
- 7 かまえ 漢字の外側を囲むもの。

3 部首の意味：同じ部首をもつ漢字は、漢字全体の意味にも共通点がある。

例 後…イ(ぎ)ようにんべん(道路・行く・行い)

4 部首をまちがえやすい漢字：漢字には、どこが部首か、わかりづらいものがある。

例 望…月(つき) 脈…月(にくづき)



知っく！

▼ 主な部首、部首名、意味

1 へん

部首	部首名	意味	例
イ	にんべん	人・体の状態	休 体
扌	てへん	手・手の動き	指 持
忄	りっしんべん	心の動き	快 情
木	きへん	木・木で作られたもの	桜 机
禾	のぎへん	穀物・収穫	秋 穀
衤	しめすへん	神・祭り	神 社
衣類	ころもへん	衣類	補 複
阝	こざとへん	おか・階段	陸 院
氵	さんずい	水・水の状態	池 流

2 つくり

部首	部首名	意味	例
阝	りつとう	かたな・刃物で切る・分ける	列 別
頁	おおがい・いちのかい	人の頭や姿	顔 頭
攴	のぶん・ぼくにょう・ぼくづくり	打つ・強制する	改 政
欠	あくび	口を開ける・かがむ	次 歌
力	ちから・りきづくり	力を入れる・つとめる	助 勉
斤	おのづくり	おの・おので切る	断 新
阝	おおざと	人の住む場所	都 部

1 漢字

部首 ▾ 部首、部首をまちがえやすい漢字

5 しよう

部首	部首名	意味	例
廴	しんによう	道・行く	近 進
走	しんにゆう	走る・移動する	走 起
辵	しんにゆう	長く続く・のびる	建 延

4 たれ

部首	部首名	意味	例
尸	まだれ	屋根・建物	庫 店
疒	がんだれ	がけ・石・岩	原 厚
疒	やまいだれ	病気・けが	病 痛
尸	しかばね	人の体・建物	居 屋

3 かんむり

部首	部首名	意味	例
艹	くさかんむり	草花・草花で作られたもの	草 菜
宀	うかんむり	屋根・家屋・空間	家 宿
宀	あなかんむり	あな・くぼみ	空 窓
竹	たけかんむり	竹・竹で作られたもの	管 箱
雨	あめかんむり	天気	雲 雪
耂	おいかんむり	老いる・年寄り	老 考

部首をまちがえやすい漢字

漢字	部首	部首名	漢字	部首	部首名
成	戈	ほこがまえ	街	行	ぎようがまえ
灰	火	ひ	蒸	艹	くさかんむり
鳴	鳥	とり	字	子	こ
利	リ	り	裁	衣	ころも
次	欠	あくび	和	口	くち
聞	耳	みみ	問	口	くち
酒	酉	ひよみのとり	取	又	また
空	宀	あなかんむり	究	宀	あなかんむり

7 かまえ

部首	部首名	意味	例
匚	かくしがまえ	区切る・かくす	区 医
口	くにかがまえ	囲う・囲ったもの	国 園
門	もんがまえ	出入口・開け閉め	間 開

6 あし

部首	部首名	意味	例
心	こころ	心の動き	思 感
灬	よつてん・れんが	火・火の状態	熱 照
儿	ひとあし	人	兄 児

問題やっつク！

2 言葉の意味にあてはまる慣用句

次の(1)～(5)の言葉のたとえとして用いることができる慣用句を、後のア～カから選びなさい。

- (1) 手遅れ (2) 無愛想 (3) 軽視
(4) 夢中 (5) おどろき

ア 木で鼻をくくる イ 後の祭り ウ 泡を食う
エ 高をくくる オ やぶから棒 カ 熱をあげる

考え方

ア「木で鼻をくくる」は「無愛想に対応すること」。これに合うのは(2)。

イ「後の祭り」は「時機におくれて間に合わないこと」。これに合うのは(1)。

ウ「泡を食う」は「おどろいてあわてること」。これに合うのは(5)。

エ「高をくくる」は「たいしたことがないと軽く考えること」。これに合うのは(3)。

オ「やぶから棒」は「とつぜんであること」。
カ「熱をあげる」は「夢中になること」。これに合うのは(4)。

答え

- (1) イ (2) ア (3) エ (4) カ (5) ウ

〈類似問題出題校〉 灘中

9

故事成語

これだけは覚えろ！

□ 故事成語…主に中国で古くから言い伝えられてきた話や残されてきた文章をもとにしてできた短い言葉。教訓や、物事のいわれを伝えるものが多い。「故事」とは「昔のできごと」という意味。

故事成語はもとの故事や由来を知っておくと、意味を理解しやすいよ！



いろいろ知ってク！

□ 青は藍より出でて藍より青し 弟子が師よりも優れること。

□ 故事 染物に使う青い染料は藍という植物からとるが、染料の青は、もとの藍よりも青いことから。

□ 圧巻 全体の中で、最も優れている部分。

□ 故事 かつて、中国の役人を登用する試験で、最も優れた者の答案(巻)をいちばん上に置いたことから。

□ 羹に懲りて膾を吹く 前の失敗に懲りて、必要以上に用心する。
□ 故事 「羹」とは熱いスープで、「膾」は魚や肉などを刻み、酢であえた料理。羹を食べてやけどをした人が、それに懲りて、冷たい膾までふうふうと吹き、冷まして食べようとした話から。

□ 雨垂れ石を穿つ 小さなことでも根気強く続け
ていけば、やがて大きなことを成しとげられ
る。

【故事】『漢書』という書物の「泰山の霤は石
を穿つ」から。「泰山という山からぼつぼつ
としたたり落ちてきた雨のしずくが、やがて
はかたい石に穴を開ける」という意味。

□ 言うは易く行は難し 口で言うのは簡単だが、実行するのは難
しい。

【故事】『塩鉄論』という書物の「之を言うは易くして、之を行
うは難し」から。

□ 一日の長 経験や技能などが人より少し優れていること。

【故事】『論語』という書物の「吾が一日も爾より長じたるを以て、
吾を以てすることなかれ」から。「わたしが君たちより年長だ
からといって、わたしに遠慮することはない」という意味。

□ 一を聞いて十を知る 少し聞いただけで全体を理解する。ひじよ
うにかしこい。

【故事】 中国の思想家・孔子が、弟子の子貢に、別の弟子・顔回
のことをたずねて「おまえと顔回とどちらが優れているか」と
言った。すると子貢は「顔回は一を聞いただけで十のことを知
ります。わたしは一を聞いて、二を知るくらいのもんです」と
答えて、顔回のかしこさをたたえた。

□ 一炊の夢 はなやかな人生も、はかなくてむなしきものであるこ
と。「邯鄲の夢」ともいう。

【故事】 邯鄲という町で、ある青年が、粟ご飯が炊けるのを待つ



間にひとねむりした。青年は夢の中で、出世をきわめて、はな
やかな人生を送った。しかし、目が覚めると、まだ粟ご飯は炊
けておらず、夢を見ていたのは、ごく短い間だったことをさ
つたという話から。

□ 一朝一夕 わずかな時間。

【故事】『易経』という書物の「臣の其の君を弑し、子の其の父
を弑するは、一朝一夕の故に非ず」から。「臣下が自分の君主
の命をうばい、子が自分の父の命をうばうのは、わずかな時間
のことが原因ではない」という意味。

【注意】「一朝一夕には過ぎない」のよつこ、後「……ない」と打ち消
しの言い方が続くことが多い。

□ 井の中の蛙、大海を知らず 広い世界があるのを知らず、自分の
中のせまい知識や経験だけにとらわれていること。

【故事】『莊子』という書物の「井蛙は以て海を語るべからず」
から。「井戸の中のかえるは海について語るができない」
という意味。

□ 意味深長 言葉や行動に、別の深い意味がかくされていること。

【故事】『論語序説』という書物の「之を読むこと愈久しくして、
但だ意味深長なることを覚ゆ」から。「これ（論語）を読めば
読むほどに、深い味わいを感じた」という意味。

□ 温故知新 過去のことを研究し、そこから新しい知識を得ること。

【故事】『論語』という書物の「故きを温ねて新しきを知る」から。
「温ねる」は「復習する・習う」という意味。

【か】 □ 臥薪嘗胆 目的のため、たいへんな苦勞をすること。

2 語句

慣用句／故事成語 ▼ 慣用句／故事成語

6

季節語一覽

いろいろ知ってク!



春の季節語



夏近し	長閑	の遅日	花冷え	余寒	暖か	春の暮	晩春	遅春	春昼	春日和	春浅し	春来る	初春	旧正月	四月	三月	二月	
苗代時	初八夜	初朔日	彼岸	麗らか	うららかな	日永	啓蟄	行く春	春惜しむ	春深し	春暁	春寒	立春	早春	朧月夜	花時	弥生	如月
山焼く	摘草	種蒔	風船	春場所	春眠	磯遊び	ゴールデンウイーク	雛祭り	桃の節句	バラのタイム	夜桜	花祭り	花の宴	梅見	遠足	入学	卒業	
野焼く	剪定	茶摘	茶摘	シヤボン玉	春の夢	潮干狩り	草餅	雛祭り	桜餅	桜狩	花の都	花見	ピクニック	入学試験	春休み			
菜種梅雨	春雨	初虹	逃水	山笑う	東風	焼野	春の水	春園	春の野	春の空	春一番	花曇	霞	薄氷	忘れ霜	雪解	淡雪	
朧月雨	花雷	初雷	苗代	水温む	風光る	焼山	春日	春塵	春田	春の雲	春の海	陽炎	蜃気楼	流水	雪間	雪崩	残雪	
桜貝	浅蜷	蛤	桜鯛	さより	練鰻	若鮎	雀の子	蛙	蚕	蜂	蝶	轉	雀の巣	花鳥	雉	雲雀	鶯	
栄螺	蜆	田螺	鱈	むつごろう	鱒	公魚	眼張	馬の仔	猫の子	いかなご	蛇	初蝶	雪虫	巣箱	春の鳥	山鳥	燕	
海苔	伊予柑	春菊	菘のとう	若緑	勿忘草	桜草	土筆	薔薇の芽	花	いぬふくり	杏の花	躑躅	雛菊	蒲公英	椿	桃の花	梅	
若布	春の苺	ほうれん草	芹	蓬	双葉	山吹	柳	木の芽	初花	ヒヤシンス	アネモネ	藤	パンジー	チューリップ	菜の花	桜		

時候

行事・生活

自然

動物

植物

時候

五月 六月 七月 冷夏 仲夏 夏至 夏のめく 夏の暁 小暑 極暑 大暑 土用 入梅 炎ゆ 短夜 涼し 秋近し

五月 卯月 阜月 水無月 初夏 立夏 盛夏 夏来る 夏深し 薄暑 暑し 炎暑 熱帯夜 田植時

梅雨 灼く 三伏 秋を待つ 麦秋(麦の秋)



行事・生活

山開き 端午 鯉幟 更衣 団扇 夏休み 海水浴 林間学校 線香花火 昆虫採集 日傘 サングラス 昼寝 浴衣 避暑 梅干し 新茶 冷奴

登山 柏餅 田植 冷房 扇風機 水遊び プール キャンプ 蚊帳 日焼け ハンモック サーフイン 汗風鈴 アイスクリーム ラムネ 麦茶 水鉄砲



自然

青嵐 五月雨 五月晴 温風 南風 入道雲 夏の雲 夏の星 やませ 夏の風 夏山 西日 炎天 朝焼 泉 滝 夏の海

青田 梅雨 風薫る(薫風) 熱風 涼風 夏の野 雲の峰 夏の空 夕風 麦の秋風 夏の日 日盛り 早稲 夕焼 清水 虹 雷 山滴る



動物

兜虫 揚羽 天道虫 蠅 蛾 水馬 蚯蚓 蛸 鹿の子 初鰹 金魚 目高 海亀

燕子 時鳥 目白 空蟬 夏燕 郭公 蚊 蟬



植物

カーネーション 卯の花 百合 ひまわり 向日葵 紫陽花 夕顔 花若 杜若 天竺 青葉 新緑 麦 茄子 キヤベツ トマト 瓜 夏蜜柑 苺 さくらんぼ バナナ メロン 枇杷

葉桜 牡丹 薔薇 昼顔 睡蓮 百日紅 早苗 夏草 若葉 万緑 空豆 筍



3 知識・表現

短歌・俳句 季語一覧

1 文・文節・単語

これだけは覚えろ！

①文…一つのまとまった内容(内容)を表して言い終えた、ひと続きの言葉。ふつう、終わりには句点(。)をつける。

【例】 日曜日に私は友人と遊びに行く。(一文)

※感嘆符(！)や疑問符(?)で終わるときもある。

②文節…文を、意味をこわさずに、発音上も不自然でないようにできるだけ短く区切ったまとまり。

文節を区切るときは、切れ目に「ネ」などを入れて考えよう。

【例】 日曜日に／私は／友人と／遊びに／行く。(五文節)

③単語…文節をさらに細かく分けて、それ以上分けたら意味がなくなったり、言葉が変わったりしてしまうところまで区切った、言葉の最も小さなまとまり。

【例】 日曜日／に／わたし／は／友人／と／遊び／に／行く。(九単語)

一つの文は、文節や単語が文の組み立てのきまりに当たって、つながってできているんだね。



知って！

文の数え方

【注意】 文の数は、必ずしも句点(。)の数と同じではない。

会話文や引用文のかぎかつこの後に「と」や「と言った。」などが続く場合は、全体を一文として数える。

下へ続いている。

【例】 「ああ、おもしろかった。」と妹は言った。(一文)

「ここで切れている。」

・「ああ、おもしろかった。」「何が？」(二文)

・あれ？／ピアノの先生だ。／「こんにちは。」とぼくがあい

さつをすると、先生はぼくを見て、ほほえみながらおっ

しかった。／「まあ、川口さん、こんにちは。」(四文)

文節の区切り方

①意味が通じるところには「ネ」が入る。

【例】 × あのと赤い／屋根の家は／田中／さんの家だ。

○ あのと赤い／屋根の家は／田中／さんの家だ。

②「て」「で」の下では、文節が区切れる。

【例】 走って／くる ・泳いで／いる

・決めて／しまう ・読んで／みる

※「て」「で」＋「意味をそえる語」になっている。

【例】 世界の／国の／名前を／調べて／みよう。(五文節)

・空を／飛んで／いるのは／ツバメだ。(四文節)

③ もとの意味がうすれた「こと」「とき」などの言葉（形式名詞）があるときは、そこで文節を区切る。

例・ぼくの／趣味は／本を／読む／ことだ。（五文節）

・それを／知った／ときには／びっくりした。（四文節）

・わたしも／今、／来た／ところ／です。（四文節）

・自分の／ためにも／がんばろう。（三文節）

※次のような言葉などがあるときも、文節を分ける。

例・言う／ほうが　・来る／はず

・考えた／とおり

④ 「ない」のついた言葉は、「は」を入れて確かめる。

例・多くない ↓ ○多く（は）ない ↓ 多く／ない（二文節）

・走らない ↓ ×走ら（は）ない ↓ 走らない（一文節）

※「は」が入れば、文節に分かれる。

例・あなたの／努力は／決して／むだで／ない。（五文節）

・機械の／調子が／よく／ないので／いつ／終わるか／

わからない。（七文節）

⑤ 「そうだ」「やうだ」「らしい」などの言葉の前では、文節は区切れない。

例・すばらしい／そうだ。

・雨の／ようだ。

※これらの言葉は単独では文節をつくれず、ほかの言葉の下についていろいろな意味をそえる働きをする。

例・予報に／よると／雨が／降る／らしい。（四文節）

・どこかで／見た／ような／気が／する。（四文節）

単語の区切り方

注意 単語の区切り方に迷うときは、より単純な形（もとの形）がなにかを考えて、意味を比べてみる。

例「聞きます」の区切り方

① より単純な形を考える。↓もとの形「聞く」

② 意味を比べる。

「聞く」…もとの形

「聞きます」…ていねい

↓「聞きます」⇨もとの形「聞く」+ていねいを表す「ます」。よって「聞き／ます」と区切れ、二単語となる。

※複合語（二つ以上の単語が組み合わさってできた言葉）は、分けて一つ一つの単語としてあつかう。

例・飛行機雲⇨飛行機+雲

・話し手⇨話す+手

・日の出⇨日+の+出

・走り回る⇨走る+回る

・勉強する⇨勉強+する

・心細い⇨心+細い

4 文法

文・文節・単語
▼
文・文節・単語

文学史年表

日本の文学作品

*の作品は、P 134～139の「作品一覧」と、P 148～153の「作者一覧」でくわしく紹介しています。

時代	作品名	作者・编者
奈良時代 (七〇〇年)	古事記* 日本書紀* 万葉集*	太安万侶 など 舎人親王 編 大伴家持 など
平安時代 (七九四年)	竹取物語* 伊勢物語* 古今和歌集* 土佐日記* 蜻蛉日記 枕草子* 和泉式部日記 源氏物語* 更級日記 大鏡 今昔物語集	不明 不明 紀貫之 紀貫之 紀貫之 紀貫之 藤原道綱母 清少納言 和泉式部 紫式部 菅原孝標女 不明 不明 不明
鎌倉時代 (一一八五年)	新古今和歌集* 方丈記* 金槐和歌集 宇治拾遺物語 平家物語*	藤原定家 など 鴨長明 源実朝 不明 不明

時代	作品名	作者・编者
室町時代 (一三三六年)	小倉百人一首 古今著聞集 徒然草*	藤原定家 など 橋成季 編 兼好法師 (吉田兼好)
江戸時代 (一六〇三年)	太平記 風姿花伝 伊曾保物語 日本永代蔵・世間胸算用 野ざらし紀行・笈の小文* おくのほそ道* 曾根崎心中・国性爺合戦 雨月物語 新花摘 古事記伝 東海道中膝栗毛* 南総里見八犬伝* おらが春*	不明 不明 世阿弥 井原西鶴 松尾芭蕉 近松門左衛門 上田秋成 与謝蕪村 本居宣長 十返舎一九 曲亭(滝沢)馬琴 小林一茶

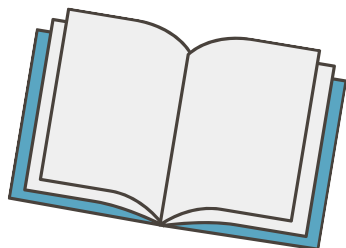
時代	作品名	作者
明治時代 (二八八年)	<p>学問のすゝめ 小説神髓* 浮雲* 舞姫* 五重塔* たけくらべ*・にぎりえ 金色夜叉* 若菜集 歌よみに与ふる書* 武蔵野* 高野聖* みだれ髪* 怪談 吾輩は猫である* 野菊の墓* 破戒* 坊っちゃん・草枕 蒲団* 三四郎 邪宗門 それから 一握の砂* お目出たき人 悲しき玩具</p>	<p>福沢諭吉 坪内逍遙 二葉亭四迷 森鷗外 幸田露伴 樋口一葉 尾崎紅葉 島崎藤村 正岡子規 国木田独步 泉鏡花 与謝野晶子 小泉八雲 夏目漱石 伊藤左千夫 島崎藤村 夏目漱石 田山花袋 夏目漱石 北原白秋 夏目漱石 石川啄木 武者小路実篤 石川啄木 斎藤茂吉</p>
大正時代 (二九二年)	<p>清兵衛と瓢箪* 赤光</p>	<p>志賀直哉 斎藤茂吉</p>

時代	作品名	作者
昭和時代 (二九六年)	<p>桐の花・子供の村* こゝろ 道程 山椒大夫 羅生門 高瀬舟 鼻 明暗 父帰る 月に吠える 城の崎にて 蜘蛛の糸 恩讐の彼方に 友情 杜子春* 暗夜行路 あらたま あかしの夢 赤い蝋燭と人魚 一房の葡萄 トロツコ 注文の多い料理店・春と修羅 伊豆の踊子 オツベルと象</p>	<p>北原白秋 夏目漱石 高村光太郎 森鷗外 芥川龍之介 森鷗外 芥川龍之介 夏目漱石 芥川龍之介 芥川龍之介 志賀直哉 萩原朔太郎 菊池寛 菊池寛 志賀直哉 芥川龍之介 芥川龍之介 菊池寛 武者小路実篤 芥川龍之介 志賀直哉 斎藤茂吉 浜田広介 小川未明 有島武郎 芥川龍之介 芥川龍之介 宮沢賢治 川端康成 宮沢賢治 宮沢賢治 小林多喜二 島崎藤村</p>

紙面サンプルはここまでです。
弊社教材サンプルをご覧ください
ありがとうございます。

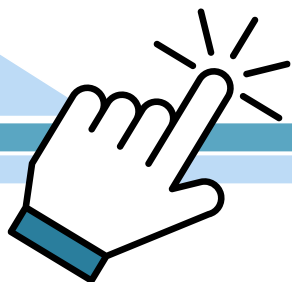
塾・学校の先生限定サイト

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ版をご覧ください。



登録無料で、他にも便利な機能がたくさん！
ぜひお役立て下さい。

Bunri Teachers' Site
会員登録はこちら



※ご登録には弊社発行の招待コードが必要です。

教材サポート

単元テスト、指導用資料、
学習サポートアイテムなど
指導をサポートするコンテンツ



最新の教育情報

社会時事問題、高校入試分析、
教科書採択情報など最新の
教育に関する情報をお届け



各種教材やテストの お問い合わせ・お申込み

生徒さま一人一人に合った教材・
テスト・デジタルコンテンツを
ご提案



※Bunri Teachers' Siteは、塾・学校の先生方のための情報サイトです。
ユーザー登録していただくことで、会員限定の詳細情報をご覧ください。
本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。予めご了承ください。

お問い合わせフォーム



招待コード発行や教材の内容・ご購入方法等
お気軽にお問い合わせ下さい。